

今年もハッピーにいきましょう

穏やかなお天気の年末年始となりました。長いお休みをのんびりとお子さんと過ごされたり、お仕事だった保護者の方もいらっしやるでしょう。お疲れさまです。今日からまた、頑張りましょう。

能登半島の大地震から一年。家族団らんの新年に流れた災害の映像に、いつもの生活が当たり前ではないことを一層に感じた年でした。何よりも大切な宝物の子どもたちをまん中に、皆さんが笑顔いっぱい的一年になりますことを願っています。

さて、昨年末には、年中きい組さんと、年長しろ組さんの「生活発表会」がありました。一人ひとりの子どもたちがドキドキしながらも、“結構いける私を見て”という表情で、個性を發揮しながら、生きいきと舞台に立っていました。「みみょう」の保育は、子どもたちに何かを教えたり、やらせるのではなく、子どもたちの気持ちを察したり対話の中で、「やりたくなる」気持ちを刺激して、「自分で考えようとする事」を大切にしています。今回の発表会も、子どもたちの思いを大切にしながら進めている様子が伺えていました。当日は、緊張してセリフが出てこない友だちには、ひそひそ声で教えてあげたり、ダンスの出入りや、前後の入れ替えに戸惑っていると、さりげなく友だちの背中を押してあげたり、そっと手をつないであげたりしてくれていました。また、泣いている友だちには頭をなでてあげるなど、誰に言われるでもなく、自然に自分で考え行動している子どもの姿には、そんなことができるんだねと、驚きと感動をもらい、日頃の保育が見えてくるようで嬉しくて思わず涙が出ました。

指示がなくても、何をしたらよいのか自分で状況判断できる子どもになるには、赤ちゃんの時から、子どもを一人の人格を持った存在として接したり、子どもの気持ちを察し、その気にさせて、考えたり工夫したくなる日々の楽しい環境が大切なのだと思改めて感じています。発表会の舞台裏では、発表会前日まで楽しそうに遊戯をしていた子どもが、突然、本番直前になって“出たくない”と言って動かず、結局、最後の合奏と歌だけには気持ちを切り替えて出たことや、思うようにいかない気持ちを物にぶつけていた子どもにも、“きつとやる”と信じて、舞台に送り出したことなどを職員が教えてくれました。出番前に突然起きる子どもたちの姿に、職員の葛藤は相当なものだったと察しますが、子どもの思いや力をちゃんと汲んでくれました。お家の人の応援、友だちの存在が力となって、みんなで最後まで頑張ったと達成感を感じてくれたなら最高です。

現代は変化が激しく、不確実性が高い社会ですが、どんな社会にも適応し、自分を大事にしながら生き抜いていくためには、乳幼児期の心身を通じた豊かな体験と大人の関わりが、これからの時代を生きていく大事な力となるのだと思います。子育ては、今、関わっていることがすぐに目に見えるものではありませんが、子どもが求めているときには満足するまで付き合っ、応えていくことがよいのではないかと思います。

子どもたちの進級、卒園まであと3か月。子どもたちや保護者の方と今年もいっぱい笑って毎日大切に過ごしてしていきたいと思っています。

園長

ハッピー☆

第二みみょうこども園の

2025年も351名の子どもたちが、きらりと光る一年に!

“一人ひとり”が光った生活発表会♪

大好きな音楽やダンス! 全身で表現する楽しさ! ぼくをみてほしい!!



大きくなったからこそ感じる緊張感!

「よし!がんばるぞ」の気持ち!



保育者と一緒に見る絵本が大好き! 心惹かれる絵本の内容、読み聞かせる保育者の声や表情に合わせて、子どもと一緒にクスッと笑ったり、神妙な顔をしたり、思わず「うお」と声が出たり...子どもの興味や感じ方はそれぞれです。

ある日の園庭で見つけたごちそう。一つひとつよく考えられていてこだわりの詰まった一品。



何を思いながら作ったのかを想像すると心がほっこりしちゃいます♪

いろいろなことを感じて、笑って、泣いて、身体を動かして。考えたり、表現したり。人ともつながっていく...そんな毎日を、子どもは自分らしく自分で歩んでいます。わたしたち大人が信じて受けとめ、育つ姿に保護者の方と共にエールを送っていきたくと思っています。

主任